

(2次) 問 29 子どもの世話についておたずねします。あなたの**一番上のお子さん**が小学校に入るまで、平日の日中(朝8時頃から夕方6時頃まで)、**だれが、どの程度**お子さんの世話をしましたか。それぞれについて、あてはまる番号を**1つずつ**えらんで、○をつけて下さい。

	一番上の子の年齢が		
	1歳未満の時	1～2歳の時	3歳～小学校入学まで
a) 子どもの母親	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない
b) 子どもの父親	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない
c) 子どもの祖父母 やその他の親戚	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない
d) 親戚ではない 他の人	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない
e) 保育所などの 保育施設	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない	1 ほとんどいつも 2 ときどき 3 たまに 4 ほとんどなし 5 その年齢になっていない

(1次) 問 31 あなたは結婚したいですか。最もよく当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 できるだけ早く結婚したい
- 2 1～2年まってから結婚したい
- 3 まだ結婚するつもりはないが、いずれ結婚したい
- 4 一生結婚するつもりはない
- 5 結婚したいかどうか、わからない

(2次) 問 36 あなたは、いずれ結婚したいですか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- | | | |
|--------------|---|------------------------------|
| 1 絶対結婚したい | → | a) もし適当な相手がいるとして、いつ結婚したいですか。 |
| 2 結婚したい | → | |
| 3 わからない | | 1 今から2年以内に |
| 4 あまり結婚したくない | | 2 今から3～4年後に |
| 5 絶対結婚したくない | | 3 今から5年かそれ以上たってから |
| | | 4 いつとはいえない |

(1次) 問 32 あなたはこれまでに同棲の経験（異性と結婚の届け出なしで一緒に暮らしたこと）がありますか。

- | | |
|-------------------|---|
| 1 ない | |
| 2 以前はあるが、現在はしていない | → |
| 3 現在している | ↓ |
- a) その同棲相手と結婚しようと思いましたが（思っていますか）。
- 1 思っている（いた）
 - 2 思っていない（いなかった）
 - 3 わからない

(2次) 問 33 あなたは2002(平成14)年2月以降、同棲(異性と結婚の届け出なしで一緒に暮らすこと)を経験しましたか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- | | |
|------------------|---|
| 1 していない | |
| 2 経験したが、現在はしていない | → |
| 3 現在している | ↓ |
- a) その同棲相手と結婚しようと思いましたが（思っていますか）。
- 1 思っている（いた）
 - 2 思っていない（いなかった）
 - 3 わからない

資料3 第2次予備調査・ヒアリングの概要

第二次調査 予備調査に関するヒアリング

資料 3 では、第二次調査予備調査に関する聞き取り調査（平成 18 年 3 月 11 日(土) 於：東京・新情報センター会議室）の結果について報告する。参加者は 2003 年 12 月に実施した第 1 次予備調査に関するヒアリング協力者で、30～60 歳代の最終学歴・職業・配偶関係混合の男女 8 名である。ヒアリング協力者には事前に依頼状・ニューズレター・読売新聞掲載の調査紹介記事を郵送して協力を求めた。

ヒアリングでは、まず参加者に調査票を記入してもらい、調査への協力を高める方法、ニューズレターに関する意見、さらに個別の質問について意見を聴取し、疑問点・問題点を指摘してもらうという形式で進められた。

今回のヒアリングの主な内容は以下の通りである。

第一に、より多くの方の調査への協力を得るためにも、調査票の回収は密封によることが望ましいとの意見が、多数出された。また、調査票自体に氏名を記入されることには抵抗があり、名前はシールなど切り剥がしができるものの上に記入し、回答者が破棄できるようにすることが望ましいという指摘があった。

第二に、ニューズレターに関しては、8 名中 5 名が聞き取り調査の場に持参しており、関心の高さがうかがわれた。

第三に、今回用意した調査票では世帯員について 6 名までしか記入できないが、世帯人員 6 名以下の調査票と、7 名以上の調査票の二種類を用意し、調査員が訪問留め置きの際に世帯にあわせて配布することが望ましいとの指摘があった。

第四に、ライフコースの中の時点を特定するには、可能な限り年齢による回答が望ましい。生年は元号(昭和)で、最近の出来事については西暦で記憶している傾向がある。ただし、過去 3 年間で順に思い出すのは容易ではなく、「過去 3 年間に変化があったのか」といった質問をあわせて用いることの有用性が示唆された。

第五に、職業については、現在の職種選択肢は「職種」と「業態」が混じっているために混乱を招くことや、正規・非正規の方が回答しやすい、また正規就業者については総合職・一般職の別も明確に答えられることや、働いている企業・事業所の社員数がわからないために回答できないことはないといったことも指摘された。さらに、育児休業の取得に関する質問項目では、現在産休・育休中の場合に、将来取得・職場復帰の意欲があることを回答する場合の問題が指摘された。

その他にも多くの本調査の調査票設計に関する有益な示唆や、より多くの協力を得るための方法が示唆された。今後本調査に向け検討を重ね、より高い回収率と回答の正確さを実現するために活用していくことが望まれる。聞き取り調査の、各質問項目に対する具体的内容については以下を参照されたい。

(西岡八郎・福田亘孝・菅桂太)

国際比較パネル調査による少子社会の要因と政策的対応に関する総合的研究

第二次調査 予備調査に関するヒアリング

日時 2006年3月11日(土) 10:00~13:00

場所 (社)新情報センター会議室

1. ヒアリング参加者

記入 順位	性 別	配偶 関係	子ども 数	職業	年齢	記入 時間	ニュー ズレタ ー持参	3年間の主な変化
①	男	既婚	有子	有職	60歳代	30分		就業時間短縮
②	女	既婚	有子	有職	30歳代	30分	○	無子→有子(2人) 産休中
③	女	離別	有子	有職	30歳代	35分	○	なし
④	女	既婚	有子	無職	30歳代	25分	○	家の間取り変更
⑤	男	既婚	有子	有職	30歳代	35分		無子→有子 家族従業→自営業
⑥	女	既婚	有子	有職	40歳代	25分	○	嘱託契約→正社員
⑦	女	既婚	有子	有職	60歳代	30分	○	無職→パート
⑧	男	既婚	有子	有職	50歳代	30分		なし

2. 「調査協力を得るためには何が必要か」

- ⑤ 前回調査の協力者は既に協力的な人であり、協力を得られるのではないか。
- ⑥ 調査員が回収時に内容をチェックするのはハードルが高い。
- ⑧ 密封回収ということがわかっている方が、素直に書ける。
- ④ チェックされることに抵抗はないが、封をするかどうかは選択できるほうがよい。
- ③ 調査員が自宅に尋ねてくることに抵抗があるし、個人的な調査の内容を手渡しすることに抵抗がある。内容もわかっているので、郵送でも協力する。
- ② 返送は郵送の方がいい。

3. ニュースレターの活用、「ニュースレターは読まれたか、調査の趣旨は理解されたか」

目は通したが、深くは読んでないという応えが最も多かった。ただし、半数以上の方が1年以上前に送られたニュースレターを持参しており、そのような方々に対するヒアリングの結果である。特に、

- ③ 「出産意欲 30歳代の男女差」がおもしろい
 - ② 「第1子出産のタイプ」が「できちゃった婚」がおもしろい
- といった感想が聞かれ、関心の高さがうかがえた。

4. 個別の質問項目について

(表紙)

③ 名前は調査票自体に書き込まれるのではなく、捨てられるものに別添されたほうがよい。をはじめとして、世帯内の別の方が記入することを避けるためであるという趣旨を説明し理解されても、調査票に名前が書き込まれることに抵抗があるという意見は多く聞かれた。

(問 2)

④⑤⑥ 子どもが3人以上で両親と同居していると、世帯人員は6人を超える。

⑤ (世帯人員7人以上の場合には2冊渡すのではなく、2種類の調査票)世帯人員7人以上の調査票を作っておいて、渡すのがよい。

「もし7人以上で6人までを選んで記入するなら、誰を外すか」

⑥ 年齢順に記入し、一番下の子どもを省く

③⑦ 自分、配偶者、子どもと関係の深い順に記入し、両親を外す

というように世帯人員6人を選ぶ際、年齢層によってまったく異なった対応が見られる可能性が示唆された。

(問 5)

「当該の住所に居住している年数を答えるのか、住所の上の家屋に居住している年数を答えるのか」

①②⑤～⑧ その住所に何年住んでいると考えて答える人はいない

③ 建て替えを行っても、当該住所に住んでいる年数で回答

④ 間取りを変更したが同じ家だと思って、当該住所の居住年数を回答

(問 6)

問3～問5のつながりで、どちらでもない(①⑤)、満足している(⑥⑦⑧)とスムーズに回答できた。

(問 7)

⑥ 絶対欲しくないが、a)で現在いる子どもの数を記入してしまった。a)の前に「もう一人欲しい人は」とあるとよいのではないか

⑥⑧ 養子が欲しい場合も、これから欲しい子どもの数に入れるのか。a)で「何人の出産を希望しますか」とストレートに聞くことを考えてもよいのではないか

(問 8)

「年収の回答法、手取り vs 税込み」

- ③ 年収は手取りで聞かれた方がよい。
- ⑤ 自営では税込み年収の総額の方がわかりやすいが、手取りに簡単に直せるので、手取りで聞かれてもよい。
- ①⑧ 税込みの方がよい。

「卒業年 vs 卒業時の年齢」

- ①④⑥ 年齢の方が回答しやすい。生まれ年から年齢を使って数えた。

「卒業年、西暦 vs 元号」

- ③⑤⑥ 西暦で答える。
- ④ 出生年から計算したので、元号で回答した。
- ② 出生年は昭和、卒業年は西暦で回答した。

最後に行った学校を卒業した時点は年齢で回答してもらった方がよい可能性がある。最近(平成に入ってから)の卒業だと、卒業年を特定するのに西暦を使うことが多い傾向があるように感じられたが、昭和の生まれ年は元号・昭和を使った年が記憶されていることが多いようである。可能な限り年齢を用い、最近(平成に入ってから)の時点を特定するには西暦を使うことが示唆された。

「生存しているきょうだい数」

- ④⑤⑥⑧ いない場合のゼロに記入なし。いるところ書いているので、いないところには記入しない。いない場合にはゼロを記入より、b)生存しているきょうだい数で、合計___人を回答し、内訳を記入する方がわかりやすい。

(問 9)

- ③ 定期的に宅配が届くが、d)にいれなかった。
- ⑥ 「子どもや孫」の列で、子ども全員なのか、一人一人なのかで迷った。当番制で家事を手伝っている場合や、順番を決めている場合どのように扱うのか。

配偶者の買い物に同行する場合

- ① 自分の買い物はしていないので、d)していないと回答
- ⑤ d)は買い物を頼まれたことを想像し、していないと回答
- ②⑧ 同行もd)で買い物をしたにカウントした。

(問 11)

- ⑤ 働かなくても生きていけるのならゼロだが質問の意図がわからなかった
- ⑧ 働きたくない(働くこと自体に生きがいがある)が望ましい時間はわからない
- ③ 働かなくても生きていけることを前提にゼロを記入
- ⑥ 就業形態の質問だと思った。
- ⑤ 現在の仕事を聞いてから、希望就業時間を聞くほうが、質問の意図が明確になるのではないか。

(問 12)

- ⑧ 男性から見て、子どもがいることが就職昇進に影響するというのは理解できない。はっきりとしないと、(全体を)回答しない。
- 個人の意識ではなく、一般にという社会意識を問う質問だと解した人がいた。

(問 13)

- ①⑤⑧ a)、d)、f)は同じではないのか。返答が一致しないのはどのような場合なのか。
「困ったときに頼れる人がたくさんいる」のたくさんは何人か
- ③ 10~20人
- ④ 2~3人
- ⑦ 5人くらい

(問 14)

- ③④ 主な相談相手二人を選択できる
- ⑥ 主な相談相手三人に丸をしている。問 14 の時点でもう注意が散漫している。
- ① 子どもの結婚の相談を、d)子どもの教育・子育てのところで子どもと相談したとした。b)の恋愛・結婚・夫婦関係は自分のことだと思った。

(問 15)

- ⑧ 回答は「ある」「ない」であるべき。

(問 16)

- ⑥ 職種と業態が混じっているので、選択肢が非常にわかりにくい。業種と職域が分かれて

いるほうが回答しやすい。いわゆる技能職の区分がない。

- ⑧ 教員だが、その他にした。専門・技術職の医師などとは大きく異なる。
- ⑤ 大工で、技術職だが、初職では現場労働者にした。実情は技術職に近いかもしれない。
- ③④ 正規・非正規の方がわかりやすく、回答しやすい。
- ⑥ 正規の中で総合職・一般職の区別は明確に答えられる。ただし、職種は限られる。
- ⑥ 電話交換手というのはどのような例なのか不明確である。
- ⑧ 学校卒業後だと、中退は含まれないのか。学校在学中からはじめた仕事はどうするのか。

(問 17)

- ⑤ 変化があったが、現在自営なので、全期間を自営にした。

「過去→現在 vs 現在→過去」

- ③ 3年前、2年前、1年前だと思って記入した。(変化なしなので問題はないが。)
- ①② 1年前、2年前、3年前の順でよい。

「西暦 vs 元号」

- ④⑦ 西暦でよい。

「企業規模」

- ⑥ 社員数なのか、ワークグループの規模なのか(1000人以上という選択肢があって)迷ったが、フロアにいる人の数で答えた。
- ①⑧ 社員数を回答した。
- ⑤ 「通常いっしょに働いている」に対しては、(自営なので)1人を選択した。社員数だと10~29人を選択する。

社員数がわからない、回答できない方はいなかった。なお、現在の調査方法でも、社員数を回答する方が相当数いるものと思われる(ヒアリング参加者の答えは概ね総社員数であった)。ただし社員数を質問するとき、⑤の方のように取引先の人数を含めることもありうるが、その方が自然な解釈を与える可能性がある。

また、b)「どれか仕事をしましたか」の問いに対して、7(その他)の意味がわからないという指摘もあった。

(問 20)

- ①⑧ 親の最終学歴については、確認のしようもなく推測。
- ③ 兼業農家であったので、b)で父は勤め、母は自営か家族従業で迷った。「主な」お仕事を質問されたと解釈して回答した。
- ⑤ 「経営者」という選択肢がない。

(問 21)

⑥ b)で自分の親は、親の親と同居しているケースがないため、その他とした。

(問 23)

⑤ 2002(平成 14)年 2 月以降に初婚または再婚を経験で、何年に経験したのかは、計算して 3 年以内であるとわかったので「はい」を回答。「この 3 年以内に経験したのか」でも回答は同じ。「前回調査以降に」というのがあれば、思い出すのに役立つ。

(問 26)

⑧ d)の性生活は、相手がどう思っているのかわからないので、回答できない。

⑧ d)「意見の食い違い」の意味が不明。

(問 28)

② 現在産休中で、育休を取得するつもりであり、さらに職場復帰の意思があるのを(職場復帰するつもりであるというのを)どのように回答すればよいのか。

⑧ 男性であっても、友人に育児休業を取得した人がいたので、自分のこととして回答した。

③④⑧ もし質問が「妊娠・出産を機に会社をやめましたか」だと回答は困難になる。

④ 結婚退社後パートに出ている「仕事をやめた」ので。

③ フリーの仕事をしていたので。

(問 29)

⑤⑥⑦⑧ 「その年齢になっていない」は意味不明。該当がなければ書かない。

③ 3 歳から小学校入学までの間に状況が大きく変わっている場合、一番最近のことを回答。

(問 31)

「その年齢になっていない」は意味不明。a)~g)の年齢のすぐ下に、「その年齢になっていない」の選択肢があればわかりやすい。

以上

資料4 第2次予備調査・調査員ヒアリングの概要

第二次調査 予備調査に関する調査員ヒアリング

予備調査(パネル)の実査(3月17日～27日実施、調査票の配布と回収)を担当した首都圏の調査員10名のうち、2名の欠席者を除く、8名(男性1名、女性7名)を対象に、3月29日(火)恵比寿にある(社)新情報センター会議室において調査検討会を実施した。なお、予備調査(パネル)では、20調査区のうち1調査区を除く19調査区において、前回調査にあたった調査員が、同一の回答者の調査にあたっており、調査員もパネルとなっている。

調査員には、以下の内容について質問した。

1. 各調査員に調査地点の状況と標本数、回収数と回収不能件数の理由別内訳、調査地点までの所要時間、留め置き・回収を含めた全稼働日数の報告
2. 案内状、新聞記事、ニューズレターの送付によって、調査に協力的になったか
3. 謝礼の形態としては、図書カードがよいのか、商品券の方が望ましいのか
4. 調査客体は前回調査をどの程度記憶していたと考えられるか
5. 各質問項目に対して、調査員の目から見て、記入しにくかった点や無回答が多かった項目、質問文を回答者が誤解してしまった事項など
6. 回答不能者に年齢などの偏りがあるか、調査への協力を向上させるために実査で気づいた問題点

調査員から得た回答の主な内容は以下の通りである。

前回調査協力者が、前回調査をどの程度記憶していたのかという点に関しては、調査地点差が非常に大きい。全対象者がよく記憶していたので調査票の内容についても十分覚えている(少なくとも回答の過程で思い出す)という意見と、少数しか記憶していない、どんなにニューズレターや調査内容に関する説明を行っても最後まで協力していないと応える回答者がいたことも報告された。しかしながら、大半の場合で、会話や調査票への記入を促す間に、回答者も(ニューズレターにしっかりと目を通していない場合でも)前回調査についての記憶を喚起するというものであった。

ニューズレターを見ているか否か、調査協力を引き出すのに有効であったかという点についても調査地点差が大きい。また、書面による連絡が届いていない(と調査客体が報告する)ケースが、3件あり、実際には相当数に読まれていない可能性もあるが、ニューズレターを読んでいる(見ている)場合には調査への理解があり(趣旨に不案内ということがなく)協力を得やすいという意見は多数あった。多くの調査員が、前回調査に比べ、今回調査への協力を引き出すことは容易であり、個人的内容に踏み込んだ調査内容にも関わらず回答は、無回答が少なく丁寧で正確だったと答えており、対象者は学術調査へ協力的な人が多いと考えられる。そのため、関心を持つ人を引き止めておくために、ニューズレターが有効であった可能性がある。また、調査員が訪問するという案内は封書よりはがきの方が望ましいという意見もあった。(地点18)

拒否の理由として、個人情報露出への不安を理由にあげるケースが多く、2年半も名簿を取っておいたのかという疑義が複数地点で聞かれた。ただ、2年間の変化があまりに大きすぎる地点もある(地点17は前回拒否4、今回拒否9)。また、表紙に名前を書かないで渡すと、

自分で記入してくれたケースがあった(地点 19)といったことも報告されており、調査員との信頼関係などではなく、調査客体が調査員に接したときの第一印象や説明の熟練度の影響、近隣に居住する調査員を派遣することの利点と欠点などは検討する余地がある。すでに平成 15 年度にも指摘されていることではあるが、(予備調査では望ましくないが)本調査では密封回収が選択できるなどのオプションをつけることを検討してもよい。

一方で、拒否の理由として、年度末の繁忙期であることによる「多忙」も多数あることが調査員から指摘された。また実査を担当した新情報センターからは「他調査と比較して対象者から(社)新情報センターあての電話問い合わせが極端に少なかった。協力実績のあるパネル対象者のため、協力的・好意的であったことが理由として推測される」という報告があった。

個別事項については、特に、問 2 世帯構成、問 5 居住年数、問 16～18 初職から過去 3 年間の職業関連の質問や、問 28 育児休業といった質問項目に関し、有益な指摘を得た。

これら、諸点を本調査に活かせるようさらなる検討を重ねたい。

(西岡八郎・福田亘孝・菅桂太)

GGP「結婚と家族に関する国際比較調査(第2次調査予備調査)」調査員ヒアリング

日時: 2006年3月29日(水)14:00~16:00

場所: (社)新情報センター 本社ビル 会議室

ヒアリング対象者: 首都圏の留置き調査員全員(男性1名、女性7名、欠席2名)

パネル調査・回収状況のまとめ							
調査地点	標本数	完了数	不能数	不能の内訳			
				転居	長期不在	一時不在	拒否
1	10	5	5	3			2
2	9	6	3			1	2
3	10	7	3				3
4	6	3	3	2	1		
5	10	8	2	1			1
6	7	5	2				2
7	10	9	1				1
8	6	3	3	2		1	
9	12	10	2	2			
10	11	10	1				1
宮城県 合計	91	66 (72.5%)	25 (27.5%)	10	1	2	12 (13.2%)
11	14	8	6	2		1	3
12	8	7	1	1			
13	9	5	4	1	1		2
14	11	7	4	3			1
15	15	12	3	2	1		
16	11	6	5	1		1	3
17	14	4	10			1	9
18	13	8	5	1	1	1	2
19	10	7	3	2			1
20	10	7	3	1			2
首都圏 合計	115	71 (61.7%)	44 (38.3%)	14	3	4	23 (20.0%)
全体合計 (率)	206	137 (66.5%)	69 (33.5%)	24 (11.7%)	4	6	35 (17.0%)

調査地点の概要と回収不能理由

調査員を対象としたヒアリングでは、各調査地点毎の状況や不能理由、不能者の年齢に偏りがあったか、案内状・ニューズレター・新聞記事の効果、前回調査の記憶など調査員が調査の過程で持った(調査地点・実査での)印象など報告してもらったので、個別質問事項に対する指摘の前にまとめた。

地点情報に引き続き、個別質問項目に対する指摘を列挙した。

【地点 11】

- 地点の区分: 住宅街
- 回収状況: 標本 14(回収 8、拒否 3、転居 2、一時不在 1)
- 拒否理由: 拒否 3 件すべて本人の拒否。「(理由は明示せず)申し訳ないが勘弁してくれ」と言われた。個人情報保護関連の問題ではないか。
- 不能者年齢: 全体的にばらついている。ただ、断られたのは年配で、会えなかったのは若い世代か。
- 案内状: ニューズレターへの反応ではないが、少子化問題への関心が非常に高く、非常に協力的なことが 1 件あった。
- 調査員印象: 調査票の内容が同じであるという調査客体からの指摘や反応はなかった。

【地点 12】

- 地点の区分: 商店街(郡部)
- 回収状況: 標本 8(回収 7、転居 1)
- 案内状: 1 名手紙が届かなかったが、地元で商店を営んでおり、調査員と顔見知りであるので協力をしてくれた。
- 調査員印象: 年配の方では商品券より図書券の方がよいのではないかと。前回調査では、1 名怪しい調査ではないかというような反応があり調査票を見ていただいて協力していただけるか検討していただいたが、今回調査では前回調査を内容もよく覚えていて、協力的だった。

【地点 13】(調査員欠席)

- 地点の区分: 住宅地
- 回収状況: 標本 9(回収 5、拒否 2、転居 1、長期不在 1)
- 拒否理由: 調査員欠席のため不明
- 案内状: ニューズレターはほとんどの方が目を通してきていた。調査票の内容を覚えてくれた方はいないが、3 名ほど回収のときにこういう調査をやったと思い出してくれた方がいた。

【地点 14】

- 地点の区分: 住宅街・アパート

- 回収状況: 標本 11(回収 7、拒否 1、転居 3)
- 拒否理由: 拒否 1 は「調査票を受け取ってはくれたが、忙しく、締め切りまでにはかけないので」。最初からの拒否はなく、回答者全員がよく記憶しており、全体的に非常に協力的であった。
- 案内状: 書面を読んでないという回答者はいたが、調査の説明をすると協力してくれた。
- 調査員の印象: 前回拒否の方は、調査票の内容を見て、その内容に拒否。今回は内容を見て協力してくれた方への調査で、調査協力をしたことだけでなく、内容を覚えていてくれているという感想を持った。前は内容への拒否が大半だったので、今回は調査しやすかった。

【地点 15】

- 地点の区分: 住宅街
- 回収状況: 標本 15(回収 12、転居 2、長期不在 1)
- 拒否理由: 拒否はない
- 案内状: 特になし
- 調査員印象: 大抵の回答者は、調査内容についても覚えていると感じた。前回調査時から、どのような調査なのかと説明を求められ、学術調査であることを強調して説明。学術調査には協力しようという回答者がいると思われる。今回 70 歳台になられた方でも、前回調査のことを覚えていたように感じた(回収時に「ごくろうさま」と声をかけてもらった)。

【地点 16】(調査員欠席)

- 地点の区分: 地方小都市の郡部
- 回収状況: 標本 11(回収 6、拒否 3、一時不在 1、長期不在 1)
- 拒否理由: 本人の拒否 2、家族拒否(インターホンで拒否、本人とはコンタクト取れず)1
- 案内状: ニュースレターを読んでいる人はほとんどいない。封もあけていないと推測される。前回調査を記憶しているようにも見えない。調査に対する関心は非常に低いと思われる。
- 調査員の感想など調査員欠席のため不明

【地点 17】

- 地点の区分: 住宅地・マンション
- 回収状況: 標本 14(回収 4、拒否 9、一時不在 1)
- 拒否理由: 拒否 9 のほとんどは個人情報への不安(2 年経過してなぜ本人・名前がわかるのかということに対する不安)であり、個人情報への拒否反応が非常に強い。拒否 1 件は家族拒否本人とコンタクト取れず。逆に、回収 4 件はオートロック分譲マンションで、合計 5 件とコンタクト成功(1 件は手紙が届いていないという不満、調査票の内容を見て拒否)、(14-1-5=)8 件はオートロック分譲マンション入り口で拒否。

- 案内状: 手紙が届いていないという不満が 2 件あり、うち 1 件は協力(前回調査に協力したことを覚えていた)、1 件拒否。
- 不能者年齢: 昭和 40 年代(30 歳代)が圧倒的に多く、次に 20 歳代。全体的に若い印象。
- 調査員の印象: 内容に対し、覚えている／ないの反応はない。

【地点 18】(調査員交代)

- 地点の区分: 住宅地
- 回収状況: 標本 13(回収 8、転居 1、拒否 2、一時不在 1、長期不在 1)
- 拒否理由: 拒否 2 は多忙(1 件は家族に留置きしたが、本人は確認する時間もない、案内状も見えていない)
- 回答不能年齢: 一時不在の女性 50 歳代は居留守か。拒否 1 の高齢者は記憶も定かでないし、面倒という反応。
- 案内状: ニュースレターや前回調査に対する記憶は非常に曖昧のように見えた方でも(個人的な調査であるが)非常にきっちり書かれてあり、協力的だった。ニュースレターは封書で届くと、3 点も入っているので、そのまま捨ててしまう。「結果報告だけだと思った(ので見ていない)」という反応があった。はがきの方が見て、調査員がくるといふことは伝えられる。
- 調査員の印象: 特に調査員が変わった、前回調査を覚えている等に対する反応はない。

【地点 19】

- 地点の区分: 新興住宅地
- 回収状況: 標本 10(回収 7、転居 2、拒否 1)
- 拒否理由: 拒否 1 は前回調査を覚えていて、「協力したいのはやまやまだが、時間があれば少しでも体を休ませたいので、今回は申し訳ないが辞退させてほしい」
- 案内状: 特になし
- 調査員の印象: 前回のことを覚えていて、協力度は高い。前回に比較して今回調査では非常に丁寧に回答してあったのは、前回調査を覚えていて学術調査に協力的な人が前回調査を引き受けてくれたからではないか。

【地点 20】

- 地点の区分: 住宅地(郊外)
- 回収状況: 標本 10(回収 7、転居 1、拒否 2)
- 拒否理由: 拒否は 1 名が(ニュースレターは読んでいてくれていたが)「今回は忙しく申し訳ないが辞退させてください」と、もう 1 名がインターホンでただ「やりません」、言葉のやりとりもできなかった。
- 調査員の印象: 前回のことを大体の方が覚えていて、協力度・感触は高い。3 名は調査員の顔をみて、調査員のことを記憶していた反応をした。

全員一致の質問項目

【謝礼の形態は、図書カード vs 商品券？】

調査協力の謝礼 500 円と 1000 円では、えられる協力はぜんぜん違う。

これだけ個人的な内容を調査するので、最低でも 1000 円はほしい。(地点 20)

前回調査のことをまったく覚えてないアパートの住人で、調査説明を行った。反応は芳しくなかったが、1000 円の図書の謝礼を渡すという説明に対して、やりますとなり、1000 円の図書券が非常に有効だった。(地点 19)

2 名は図書券にひかれて協力してくれた。配偶者に留め置き回収し、「主人が図書券喜んでおりました」という反応をえた。(地点 15)

【問 8】

卒業年は「昭和」の回答が多い。

兄弟姉妹でいない場合にゼロを記入すべきところ、記入していないケースが多数。

【問 10】

全般的に「どちらでもない」が多い。

個別質問項目に対する指摘

【問 2(世帯)】

回収ぎりぎりにあわてて記入したと思われる若い方で、8人世帯で、祖父母両方に二つ丸がある。(地点 12)

高齢者・女性で自分と配偶者(世帯主)を逆に記入しているケースがあった。(世帯主を先に記入。)(地点 19)

7人上で何人かわからない。母親が入っていないが、同居の項目を見ると、母親が同居しているはずであることはわかる。(地点 20)

【問 5(住居？住所？)】

1名住所で記入していた。本人は家屋とっていて家を建て替えたから 10年と記入していたが、母親が回答をチェックして 28年に直した。この住居か家屋かの認識の違いで問 6の満足への回答が異なってくると思われる。(地点 14)

【問 7(希望子ども数)】

高齢者には、現在いる子どもを含めて、全部で何人ほしかったですか？の方がわかりやすい。50～60歳代には回答しにくいという不満があった。(地点 12、18、19)

矢印がないのに、希望数を記入している。(地点 20)

【問 10(価値意識)】

a)親の面倒をみるのは長男の義務である、について、欄外に「そんな考えがあるとは驚きました」とコメントの書き込みがあり、「どちらともいえない」に丸がしてあった。(地点 14)

【問 15(離家)】

結婚まで親と同居した場合は、「いいえ」(現在結婚生活で親と同居していなくても、親元を離れたことがない)と回答するケースが多数ある。

【問 16~18(初職・職業歴)】

技能職やその他の仕事を「専門・技術職」に含んでしまう回答が目立った。たとえば、学校卒業後 18 歳で初めて就いた仕事が「専門・技術職」など。

質問文では「あなたの現在と過去 3 年間の仕事を」聞くと書いてあっても、選択肢を見ると、いままでの人生で働いたことがあるかないかの質問であると解釈される。「今はついていないが、過去にはついていた」を選択して、各時点の就業状態(下の列)の回答をしていない。(地点 18)

最初の働いたことがあるか否かはこの 3 年間の経験を聞いているので、「働いたことは一度もない」ではなく、「この期間に一度も働いたことはない」にすべきではないか(地点 11)

学卒後初めての仕事では「一度も働いていない」と回答(何歳とも書いていない)が、「最近派遣で働いており」種類が違うので、1 年間の間で丸が 2 つ 3 つあり、合計で XX ヶ月と書いてある。(地点 14)

前回専門技術職で今回はおそらく労務職・技能職(年収は低く、大学にも行っていない)が、プライドがあって職種が生産工程現場労働であるとは答えず、専門・技術職と答える。若ければ現場生産労働であると答えるかもしれないが、高齢者で再就職していればプライドがあり、現場労働者(技能職)が専門・技術職であると答える。(地点 18)

51 歳男性、「分類がおかしい」とのコメントがあった。(地点 19)

3 年前は勤めで、この 2 年間は派遣 1 名(自営 1 名)になった人があり変化の記入はある。1 年の間に変化していると記入できないので、丸 2 つ 3 つ着いている場合がある。(地点 19)

過去 3 年の経験を聞いているのに、回答・選択肢からこれまで働いたことがあるかないかを聞かれていると勘違いしてしまい、「3 今はついていないが、過去についていた」と回答、下の 3 列ではすべて「働いていない」×6 と一緒に働いている人の数「なし」を選択してくれているが、a)で終わりになるような設問にすべき。(地点 20)

【問 20(親の学歴)】

「わからないが 91 歳のおばあちゃんにわざわざ電話して聞くほどのことでもない」「親の学歴を回答するのは嫌だ」「なぜ必要なのか？書きたくない」といった反応があった。(地点 19)

【問 28(育休)】

男性・自営で「回答できない」「どう書いてよいかわからない」という指摘があった。(地点 12、18) 男性で自分が聞かれていると判断しての回答と、「配偶者だったらどのような答えになるか・・・」と赤で自分とは別に回答してくれていた人がいた。(地点 18)

51歳男性で「回答できない」「どう書いてよいかわからない」。男性無回答が多い。31歳男性で(恐らく配偶者で考えて)「仕事をやめた、出産後職場復帰」と回答してある。(地点 19)

【その他】

表紙に名前を書かないでくれという反応と、記入しないで渡しても自分で記入してくれる人がいた。(地点 19、20)

以上